

THE MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION

# いい人・いい音

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団

第24号

2019年1月4日発行

発行：明治安田クオリティオブライフ文化財団  
 編集：専務理事 醬油 和男  
 住所：〒160-0023  
 東京都新宿区西新宿1-9-1  
 TEL:03-3349-6194  
 FAX:03-3345-6388  
<https://www.meijiyasuda-qol-bunka.or.jp>

## 〳〵巨匠たちの友情〳〵



ハイドンとモーツァルトは、親子ほど、年が離れていました。モーツァルトの方が、24歳下です。でも、互いに尊敬しあい物凄く親しみ合っていた事は有名です。

モーツァルトは、有名な弦楽四重奏曲集「ハイドンセット」に、美しい文章を付けて献呈するなどして、ハイドンに深い敬愛の念を持って接していました。ハイドンは、モーツァルトの事を「知っている限り史上最最高の才能の持ち主だ」と評価し、本人だけでなく、モーツァルトの父親のレオポルドなど、周囲の音楽家などに接していました。モーツァルト死後も、彼の才能は、今後100年は現れないものだったと、モーツァルト夫人を慰めたりしています。

1790年12月、あまり遠くに旅をした事もなく、外国語も解らないのに、年老いたハイドンが、当時

ウィーンから遙か彼方だった、ロンドンに行く事に猛反対したモーツァルトが、旅立つ日に「これが永遠の別れ、になってしまおう」と、泣きじゃくりながら、見送ったというエピソードは、哀れを誘います。確かに「永遠の別れ」にはなりました。1年後の、1791年12月5日に、若い方のモーツァルトの方が36歳を迎える事が出来ず、亡くなってしまうからです。悲しくもありませんが、大作曲家間のこの友情には心打たれます。

シューベルトが「ペートル・ヴェンの傍に埋葬して欲しい」と云ったという話も美しい。ハイドン・モーツァルト間ほど、睦まじかったかどうかは判りませんが、シューベルトにとつてペートル・ヴェンは畏敬すべき存在ではあった事でしょう。1827年のペートル・ヴェンの葬儀には20数万ウィーン市民のうち2万人が参列したぐらいだそうですから、シューベルトも松明を持って参列したようです。

2004年秋でしたか、私はミュンヘン国際コンクールの審査委員に呼んで頂きました。ついでに、ウィーンに寄って、巨匠たちのお墓巡りもする事にしました。

モーツァルトが埋葬されたところ、考えられているザンクト・マルクス墓地は、想像どおり、鬱蒼とした小さな森の中にあり、粗末な物でした。

フルーティスト・東京藝術大学名誉教授

金 昌 国

(当財団音楽分野選考委員)

数名一緒に埋められたようで、正確には何処に埋められたのかは、判らないようです。モーツァルトの前年に亡くなったヨーゼフⅡ世の出した豪華な葬儀を禁じる一環としての埋葬令の影響もあったのでしょうか？それに随分稼いでいた筈なのに、浪費家であったモーツァルトが、妻コンスタンツェに十分残さなかったとも言え、永遠に遺骨が判らなくなってしまうのは寂しいですね。ハイドンの墓地もウィーンにある事を、この時は知らず、見逃してしまっただけは残念です。ペートル・ヴェン・シューベルトがまず埋められた、市内の住宅街にある、元ヴェーリング墓地には行けなかつたのですが、1888年に郊外に建設された、大変立派な中央墓地には行きました。音楽家コーナールの真ん中に、シューベルトの望みどおり、ペートル・ヴェンとシューベルトの墓が並び、その廻りにはブラームスを始めとする、ウィーンゆかりの大音楽家達の墓が並んでいます。うしろには無数の音楽家達の墓が続いています。素晴らしく豪壮な景観でした。

我々に、二百数十年に渡り、素晴らしい音楽を与え続けてくれている大作曲家達を、心から敬愛するとともに、彼らの間の気高い友情を、この世で最も美しい物の一つだとおもいます。

「海外音楽研修生費用助成」の

二〇一九年度申込受付を開始

助成の趣旨等

当財団は、一九九一年六月の設立以来、「クラシック音楽分野における若手音楽家の人材育成」を目的として海外音楽研修や海外音楽コンクール参加のための費用の助成を行ってきました。過去二十八年間の助成対象者数は、合計一九三名です。二〇一九年度においても、「海外音楽研修生費用」の助成希望者を公募いたしますので、助成を希望される方は主な音楽大学や音楽指導者宛に送付した「申込要領」または当財団のホームページをご覧ください、四月五日（金）までにお申し込み下さい。

1. 助成の趣旨

わが国のクラシック音楽文化の向上のため、国際的音楽家を目指して研鑽中の若手音楽家に対し、海外、特に欧米への留学に必要な費用の助成を行います。

2. 助成対象

海外の教育機関等に留学し、技術を練磨するとともに、その実体験を通じてさらに研鑽を深めることを志す方。（対象とする専門分野は、声楽・器楽）

- ・ 大学卒業（予定）者および大学院在籍者・修了（予定）者。なお、高等学校卒業（予定）者も可とする。
- ・ 声楽は一九八六年九月一日以降、器楽は一九九一年九月一日以降に生まれた方
- ・ 海外留学についての計画

- ・ と目標が明確である方
- ・ 二〇一九年から二〇二〇年十二月末までに申込書に記載された教育機関等に入学が可能な方
- ・ 研修目標の達成に必要な語学力を有する方
- ※ 既に海外に留学中の方も対象になります。

3. 助成対象人員

- ・ 四名程度
- 4. 助成金額
- ・ 年額二〇〇万円
- ・ 助成期間は原則二年

申込手続書類等

1. 申込書

- ・ 所定用紙による。

2. 推薦書（二通）

- ・ 二名の方の推薦が必要。
- ・ 推薦書には、次の項目を必ず記入のこと。①あて先（当財団名）、②被推薦者（応募者）の氏名、③推薦理由、④作成日（3ヶ月以内）、⑤推薦者本人の署名
- 3. 録音資料および録音証明書

(1) 録音資料

- ・ 本人の演奏を収録したオーディオCDまたはM/Dを提出のこと。（ピアノ

および管楽器の一部、打楽器については楽曲の指定あり、詳細は申込要領にて確認のこと）

- ・ 二〇一八年七月以降に録音された演奏であること。
- ・ 応募者本人の演奏が明確に聴き取れる録音状態であること。（声楽の重唱・器楽の重奏等、個々の演奏者を識別しにくい録音は審査の対象外）
- ・ オーディオCD（またはM/D）は録音した曲目の楽曲構造に応じて、分割（トラック分け）し経過時間（トラック分け）し経過時間を記入のこと。

(2) 録音証明書

- ・ 応募者本人の演奏であることを、伴奏者（個人または団体）、演奏会主催者、録音スタジオや録音エンジニア等の録音に立会った関係者が書面により証明のこと。
- ・ 証明書には、次の項目を必ず記入のこと。①演奏者氏名、②録音日時、③録音場所、④曲目、⑤証明者の住所と電話番号、⑥証明書作成日、⑦証明者本人の署名

日程

1. 申込期限
  - ・ 四月五日（金）必着（申込書類は簡易書留便による郵送を原則とします）
2. 選考日程
  - ・ 第一次選考（書類・録音資料審査）は四月下旬
  - ・ 第二次選考（第一次選考通過者に対する実技および面接）は五月二十二日（水）
3. 結果発表
  - ・ 六月上旬予定

【開催地 東京・新宿】

3. 結果発表
  - ・ 六月上旬予定

選考方法

当財団の選考委員会で厳正に審査の上、助成候補者を選出し、その後、理事会の承認を経て助成対象者が決定されます。

詳細については、「申込要領」または当財団のホームページ

([www.meijiyasuda-gol-bunka.or.jp](http://www.meijiyasuda-gol-bunka.or.jp))を参照下さい。

## 海外音楽研修生レポート

### 「ウィーン我が夢の街」



(コンサート後、師事している  
ワルター・モーア先生と)

(16年度助成・声楽)  
鈴木 玲奈  
(留学先・プライナー音楽院)

音楽の都ウィーンに留学をさせていだいてから早一年が経ちました。ウィーンには沢山のコンサートホールがあり、毎日のように素晴らしい演奏を聴くことができます。各国からスターが集まる国立歌劇場の立見席は、なんと3・

4ユーロ(400・500円ほど)で観ることが

できるので！そして各座席に付いている字幕は日本語も選んで、難しい作品もわかりやすく観ることができず。世界トップクラスの素晴らしい演奏を鑑賞して学べることは、本当に贅沢で現地に住んでいる特権だとしみじみ感じています。また、クリスマスシーズンにはマーケットで街が賑わい、万霊節には作曲家たちが眠る中央墓地へお参りに行き、週末のミサに参列するなど、ヨーロッパの文化を肌で感じられることが、演奏の糧になっていくことと思います。

現在師事しているワルター・モーア先生は、レッスンの度に沢山の課題をくださり、ウィーンで活躍したシューベルトやモーツァルトなどの作品から、複雑

な現代曲まで幅広くご指導くださいます。モーア先生は豊富なご経験から作品の解釈も深く、毎回濃密なレッスンを受けることができるのは本当に幸せです。

ヨーロッパは、日本の国内旅行のような感覚で電車やバスで国境を越えることができるので、レッスンやコンクール、オーディションにも果敢に挑戦しています。また、街中や電車の中でも、人々がフレンドリーに話しかけてくださり温かみを感じます。とくに音楽の話題では会話が弾み、クラシック音楽が文化に根付いていることを改めて感じます。こちらで様々な国籍の方々とコミュニケーションをとる上で、発想の違いや国民性などに多くの刺激を受けています。

このような恵まれた環境で学べる機会をいただきまして、貴財団のご支援に深謝いたします。これからも貴重な日々を大切に過ごし、邁進してまいりたいと思います。

### 「伝える力」



(ジョージア・トビリシにてメン  
デルスゾーン作曲「讃歌」のソ  
プラノソリストをつとめた時)

(17年度助成・声楽)  
松原 みなみ  
(留学先・ウィーン国立音楽大学)

早いものでウィーンに来て三度目の冬を向かえようとしています。貴財団の皆様のおかげで、日頃よりこの地で芸術に触れ、思う存分音楽に取り組んでいます。いつもご支援頂きまして誠にありがとうございます。

留学当初を振り返って最初に頭に浮かぶのはオペラ科での稽古の日々です。演出家の意向で読み替えや他のオペラ作品からの引用が多かったため、ドイツ語も全くままならなかった私にとっては、自分の表現をすることが、演出意図を理解することがまず難しく、思い悩ん

でばかりでした。戦いの場面に備え、舞台裏で赤い絵の具(あざや血)を全身に塗りたくっている時、その場に居合せた演出家に「何で赤を塗っているんだ。君の血は黒だろう。」と言われたこともありました。私の(役の)血が黒だなんて初耳でしたし、未だになぜかは分かりません(笑)、今では笑いのネタに出来るこの様な日々も、当時の私にとっては不安や葛藤の連続でした。

そんな中、私にとって救いは、「音楽」や「詩」でした。声楽の師匠のもと、作品の「伝えたいこと」を噛み砕いてそれにあつた表現を探す作業は本当に楽しいもので、時代も文化も宗教も何もかも違う私がこの作業を通じて作品の理解を深め、共感できることが何より嬉しく感じました。師匠が時折仰る「君が受け取ったその感動や共感を、今度は君が聴いてる人に届ける番なんだよ。」は演奏をする上で私の大事な指針となりました。

昨年の春にオペラ公演「魔笛」のヒロイン・パミーナを演じ、有難いことに沢山好評を頂きました。特に嬉し



い言葉は同僚からもらいました。「一緒に舞台にたつても、あなたのパミーナには毎度泣かされるのよ。心を揺さぶられるのよ。」—作品から私が受け取ったものを、私を通してちゃんと届けられたのではないかと思います。今後一筋縄ではいかないような困難なことが待ち構えているかもしれませんが、チャレンジすることを恐れず、「伝えること」を大事にひたすら邁進していきたいと思えます。

「真夏の暑いレッスン」



(フレンチエ・ラドシユ氏とレッスンの模様(ドイツ・ワイマールに於いて))

(17年度助成・ピアノ)

今田 篤

(留学先・フェリックス・メンデ

ルスゾーン・バルトルディ音楽・演劇大学ライブツィヒ)

ドイツでの学生生活も2年目に入り、今まで以上に充実した勉強ができています。昨年一年間は、お陰様で数多くの講習会に参加し、著名な演奏家や教授のレッスンを受講しました。その中でも特に印象に残っているものは、今年7月のワイマールで行われたフレンチエ・ラドシユ教授のレッスンです。氏はアンドラーシユ・シフやゾルタン・コチシユの師匠として知られており、以前からレッスンに興味がありました。今回初めて受講しました。3回のレッスンでは、ブラームスのピアノソナタ第一番とシューベルトの楽興の時を聴いていただきました。レッスンの内容は至ってシンプルで、主に音楽がどのように構成されているか、音楽をどのようににフレーズングしていき、どこに頂点がありどの声部やハーモニーが重要かという点について多くの時間が費やされ、音楽は表面的な美しさよりもどのよう

に機能しているかが重要であると仰っていただきました。3回という限られた時間ではありましたが、全ての箇所において一切の妥協がなく、同じフレーズを出来るようになるまで何度も何度も繰り返して、数ページで終わってしまったこともありましたが、シフやコチシユといった偉大な演奏家もこのようなレッスンを経て、聴衆に感動を与える演奏をしていくことに大変感銘を受けていました。残念ながら先生の十八番であるリストやバルトークの作品は当時レパートリーになかったので受けられませんでした。他の受講生のレッスンを聴講し、ハンガリーの民謡を口ずさんだり、独特のリズム感について演奏を交えながら細かく説明したりと大変興味深く、今後の勉強に役立つ知識を色々教えていただきました。普段はレッスンやマスタークラスはしておらず、不定期にマスタークラスをするのとこのですが、今後も積極的にレッスンを受けて続けたいと思えます。

「ウィーンでの生活」



(2018年9月30日フリッツ・クライスラー国際ヴァイオリンコンクール受賞の様子。ウィーン楽友協会大ホールにて。)

(17年度助成・ヴァイオリン) 坪井 夏美

(留学先・ウィーン私立芸術音楽大学)

早いものでウィーン私立芸術音楽大学の修士課程でパヴェル・ヴェルニコフ先生のもとで学び1年が過ぎました。先生のレッスンはいつも新しい発見の連続で、先生の大きく自由な音楽に触れる中で、最近私の中にも変化が生まれてきたように感じます。私の住んでいる学生寮は、

世界遺産にも登録されているウィーン歴史地区の中にあり、国立オペラ座や楽友協会等のホール、教会や美術館にも徒歩10分以内で行ける恵まれた場所にありません。世界各国からウィーンの様々な大学に留学してきた学生が暮らす寮で催される年に一度のウエルカムパーティーの賑やかなこと！学校の友人達と室内楽を組んだり音楽談義をしながら、週に何度もオペラやコンサートに足を運べる贅沢な環境に大満足の毎日です。

ウィーン的生活に少し慣れてきたある冬の朝、加湿器の代わりに電気湯沸かし機の蓋を開けっ放しにしてウトウト…。気がついたら火災報知器が全館でびーびー鳴り響き、寮の管理人さんが私の部屋に！更にその10分後には体の大きな消防士さんが2人も!!『出勤時間を秒単位で計算して請求するから、よろしくね』と言われ、数カ月間ポストを開く度にドキドキしていたのですが、幸いにもおとがめなし。まさか異国の消防士さんと話す機会があるな

来て：身が引き締まった出来事でした。

これから冬を迎えるシーズンですが、気温がマイナス15度まで下がり、昨年は冬の厳しい寒さと暗さに驚きました。長い冬が去って暖かい春が訪れたときの嬉しさは初めての感覚で、春の喜びが多く曲に表現されてきた理由を、身をもって理解できた気がします。

先日、留学して1年の節目に受けた『第9回フリッツ・クライスラー国際ヴァイオリンコンクール』にて第5位に入賞いたしました。結果については嬉しい気持ちと残念な気持ちが入り混じったものになりましたが、楽友協会のブラームスホールにてファイナルが催されたこと、またガラファイナルでは楽友協会『黄金の間』とも呼ばれる憧れの大ホールにてクライスラーの曲を演奏させていただけたこと、生涯忘れられない素晴らしい経験となりました。満場のお客様の前で演奏させていただく喜びと幸せを感じると共に、これからも真摯に音楽と向き合い更に精進していきたくと改めて

強く感じました。このような恵まれた環境での留学生活を支えてくださっている貴財団の温かいご支援に心から感謝申し上げます。

「自由平等博愛の国フランス」



(2018年3月エッフェル塔の前にて)

(17年度助成・サクソフォン)

中島 諒

(留学先・パリ国立高等音楽院)

フランスに来たばかりの私は、驚いた。何に驚いたかというと、もはや全てである。何もかもが日本と違う。言語はもちろん、文化、習慣、食事、システム、銀行、行政：あげたらきりが無いほどすべてのスタイルが違

う。もちろん私はフランスでは外国人。そこに住んでいるからには順応しなければならぬ。よく言われるパリシンドローム(いわゆるおしゃれでエレガントな雰囲気の中、片手にバゲットをかかえて、颯爽とパリの街を歩いているようなイメージが、現地に来てみて一度にして覆され若干の精神不安定になる様子)には、

ならなかったがそれに近い衝撃はあった。やはり住むとなると話が違うのである。フランスは個人の意見を大切に教育を徹底的に行なっており、みなさん大変主張が強いのである。日本でのコミュニケーションに必須のあうん呼吸と、奥ゆかしさはもはや、個性がなく自分の主張がないということになるらしく、なかなか理解してもらえない。フランスはほかの欧州に比べて、英語が通じにくい傾向がある、もちろんフランスではあるが、全てフランス語である。日本で勉強してきたことが、全く役に立たなかったとは言わないが、こんなにも実会話で使うと

なると感覚が違うものかと驚いた。

やはり言語はコミュニケーションであり、生きた言語はそこで学べるものがたくさんあると改めて感じた。フランス人の仲間からあなたは発音がいいねと最近お褒めの言葉をいただく。やはり音楽家なので！とそこは一つ頑張りたいたいところである。

そしてフランス、特にパリは多民族な街で、たくさんの人種の方がそこで生活しており、様々な文化がそこに凝縮している。まさに世界都市である。とにかく喋って喋って、積極的にコミュニケーションをとる必要があるので、色々な国の方と、交流ができるのは、素晴らしい事だと思ふ。

そんなパリの街で芸術が生きている。昔からの伝統を大切にしている。新しい芸術や、アイデアや尊重しようという精神が根付いている。人生の中でこの経験は一生の宝であり、またこれからどんな発見が出来るのか、どんな人々や新しいアイデアに出会えるのか、とても楽しみである。

日本音楽コンクール

明治安田賞受賞者(作曲部門)

日本音楽コンクールの作曲部門は、作曲家の方々がデビューの足掛かりとしてきた重要な部門ですが、当財団は若手作曲家の励みとなるよう財団発足の91年度から部門の最優秀者に対し「明治安田賞」(賞金50万円)を寄託し、次の方々が受賞されています。

91年度 (第60回)	山河 智 (敬称略)
92年度 (第61回)	伊佐治 直
93年度 (第62回)	藤満 健
94年度 (第63回)	原田 敬子
95年度 (第64回)	伊佐治 直
96年度 (第65回)	望月 京
97年度 (第66回)	若林 千春
98年度 (第67回)	なかにし あかね
99年度 (第68回)	大場 陽子
00年度 (第69回)	三浦 則子
01年度 (第70回)	小野 貴史
02年度 (第71回)	名倉 明子
03年度 (第72回)	朴 銀荷
04年度 (第73回)	中村 寛
05年度 (第74回)	宮澤 一人
06年度 (第75回)	横島 一人
07年度 (第76回)	篠田 昌伸
08年度 (第77回)	山根明季子
09年度 (第78回)	稲森安太己
10年度 (第79回)	江原 修
11年度 (第80回)	中辻小百合
12年度 (第81回)	三宅 悠太
13年度 (第82回)	魚路 恭子
14年度 (第83回)	網守 加恵
15年度 (第84回)	杉本 友樹
16年度 (第85回)	向井 俊介
17年度 (第86回)	東 優拓
18年度 (第87回)	白岩 哲朗
	久保 渚



助成対象者の皆さんから寄せられたお便りを助成年度、専攻部門の順に掲載しました。

1991年度助成

鈴木 優子

(パーカッション・ハンブルク在)  
ドイツと日本で活動をしており、横浜の教室では、8月に発表会を開催しました。ハンブルクのドイツ劇場において演劇作品の演奏を担当しており、昨年は1月と10月にシェイクスピアの2作品の初演に携わりました。指導や演奏において、音の表現の仕方、の大切さを日々感じております。

1992年度助成

田中 晶子

(ヴァイオリン)  
ドイツの夏は暑かった！マスタークラスと音楽祭で20日間、行きました。冷房のない国で35度の気温、昨年は本当に過酷でした。音楽祭では毎

日開催される、異なったプログラムをこなすのに、猛暑の中、何度も弱音を吐きそうになりながらがんばりました。でも素晴らしい音楽家の同僚たちとの舞台での瞬間の共有は宝物になりました。やはり最後は音楽に救われ、すべて良しとなりますね。

梅津 千恵子

(パーカッション)

2016年開始「パーカッションメッセ」大地の響宴」自主企画公演を継続しています。昨年の2回公演はウィーン、メキシコそれぞれから演奏家が来日。プログラムから共に練り、最高のステージを用意できるのはネットの恩恵。打楽器演奏に好条件の「アミュゼ柏クリスタルホール」の協力あつての継続と、観客と回を重ね育む音楽文化の体現に感謝し、世界平和を熱い音に込めて演奏しています。

1993年度助成

九頭見 香里奈

(ヴァイオリン・アウグスブルク在)  
いつもお世話になり、有難うございます。今までと変わりなく、Stuttgartファイルでの仕事の傍ら、年に数回、ソロ

と室内楽のコンサートに出演させて頂いています。気が付いたら、ドイツでの生活も人生の半分以上になりました。

齋藤 千尋

(チェロ・シユトウツトガルト在)

りしている毎日です。

が、それでも、未だに自分の意見を堂々と言う事に抵抗があります。最近、オーケストラの会議で、80人以上の同僚を前にして、少し長めに発言をしなければいけない機会があつたのですが、それがストレスになりました。会議の前に何を話すべきか考え、言葉を選び、何度も書き直し、家族の前で話す練習をし、ドイツ人の同僚の中には、人前で発言するのは苦手だし、前もって考えておかないと全く話せないという人も少しはいますが、私から見ると、一般的に、ドイツ人達は議論が得意のようです。3年生の息子の授業内容や宿題を見て、ここでは小さい頃から大勢の前で、先生や目上の人に對しても意見を言う機会が多いように感じます。私達日本人が大事にしている「周りに合わせる」や「空気を読む」という事もとても大事だと思えますし、息子にはそういう日本人の良さも身に付けてほしいと思う反面、ドイツでも、議論に加わられるようになりたいた感じ、これをいい機会にドイツ語の本を熱心に読んで

1994年度助成

マリア・アヤ・アシユリー

(ヴァイオリン・ボン在)

昨年5月には、韓国3都市と中国8都市にケルン放送交響楽団の演奏旅行で行きました。かなりの強行軍で大変なツアーではありましたが、特に中国の発展に驚きました。皆スマートフォンを持っていてお陰で、翻訳のアプリなど使って色々な人とのコミュニケーションを楽しみました。漢字を書けば何となく伝わることも面白かったです。あまり知られていないはずのシベリウスの交響曲も喜んで聴いてもらえたようで、やはり音楽は世界共通の言語だと実感しました。

松岡 みやび

(ハープ)

新年おめでとうございませう。昨年は初めての映像作品のプロデュース・ハープ演奏にチャレンジしました。D.V.D・Buttlay・CD「フェアリーハープ」同時発売。47弦グラランドハープから25弦ミニハープまで、全13曲を一眼レフカメラ5台による多角的なアングルから捉え、ミヤビ・

メソッドの技術を伝えていま  
す。森とチャペルで撮影した  
ミュージックビデオを  
YouTubeにて公開していま  
すので、ご覧いただけました  
ら嬉しいです (MIYABI  
METHOD公式チャンネル)。

今年「動画配信レッスン」  
という新しいコースを立ち上  
げます。現在27県より飛行機  
や新幹線で、100人以上の  
生徒さんが東京までハーブを  
習いに来てくださっているの  
で、交通費をかけずに自宅で  
音楽を学べるシステムを考え  
ました。バラエティ番組にも  
出演し、芸能人の皆様にハー  
ブを教えたり、ハーブをつ  
かった心理カウンセリングを  
するなど普及活動に尽力して  
おります。今年もどうぞよろ  
しくお願い申し上げます。

神田 寛明

(フルート)

フルートの教則本を出版し  
ました。中学・高校の吹奏楽  
部に所属する生徒を念頭に、  
教程の初歩を述べたもので  
すが、楽器の扱い方にとどま  
らず、音楽の素晴らしさを共感  
するためのあらゆる感覚、歴  
史、言語、美学、物理、リベ  
ラル・アーツまでを貪欲に  
得ることの重要性も書き連ね  
ました。少しくどかった??か

もしれないし、尖った事も書  
きました。それにしても自分  
の行為を万人にわかりやすく  
伝えるのは、とても難しいも  
のですね。

1995年度助成

大森 潤子

(ヴァイオリン)

一昨年、11年間勤めた札幌  
交響楽団を退団しました。昨  
年春から再び、藝大で学生さ  
んたちとの学びの時間をもち  
つつ、各地オーケストラにゲ  
ストトップとして呼んで頂き  
ながら、活動をしています。

パリ国立高等音楽院で勉強  
させて頂き、帰国してから20  
年が経とうとしています。そ  
れぞれに活躍する同窓の仲間  
たちに、相変わらず刺激を受  
けつつ、励まされつつ、歩ん  
でいます。

志茂 美都世

(ヴァイオリン)

今年も引き続き、色々なこ  
とにチャレンジして演奏活動  
をしていきます。私は2年間  
の助成を頂いてプラハに留学  
していましたが、日本とヨー  
ロッパでは文化が異なり初  
めの頃は色々と大変でした。  
でも素晴らしい留学の体験は  
0.1秒ごとが私にとって学び

であり、新鮮なドラマがあり、  
今となれば私の体の一部とし  
て吸収され、適した素敵な言  
い方が見つからないのですが  
演奏の肥やしになっていま  
す。国境を超えた新しい多く  
の出会いがあり、別れもあり  
ました。皆さんも留学先で大  
変なこともあると思います  
が、頑張ってください。

神代 修

(トランペット)

大阪教育大学に赴任してか  
ら、早いもので7年目を迎え  
ました。国立大学を取り巻く  
環境は厳しいですが、新たな  
ニーズに応えられる大学に生  
まれ変わるため、また様々な  
地域で音楽の素晴らしさをお  
伝えする活動に対して、頭と  
身体をフル活用する日々は大  
変充実しています。またその  
合間にバランス良く演奏活動  
をおこなえていることも、本  
当に有難いと思っております。  
す。これらの活動の源には、  
ウィーン留学で学び、体験し  
てきたことが多くを占めてい  
ることを実感しています。改  
めて留学をサポート下さった  
明治安田クオリティオブライ  
フ文化財団に感謝申し上げます。

石橋 幸子

(ヴァイオリン・チェリツヒ在)

昨年は少し体調を崩してし  
まった為、今年はいかに健康  
な日々を過ごして音楽を楽し  
むかをモットーに活動してい  
ければと思っております。これ  
から留学をされる皆さん。特  
に海外にいくと、日本のよう  
な「人間ドック」を定期的に  
受けられるシステムは存在せ  
ず、体調管理は自己責任にか  
かってきます。もし体に異変  
を感じたら、異国の地でも躊  
躇せずに直ぐに診察を受けら  
れることをお勧めします。音  
楽大学に入学すると、まず入  
居先や住所登録を済ませ、次  
に銀行口座の開設や保険の申  
請がありますが、それらが承  
諾されると直ぐに行動範囲が  
広がります。そして、個人病  
院での診察も可能になり、自  
己負担額も1〜2割程度と安  
く、とても受診しやすくなり  
ますので(ヨーロッパの場  
合)、どうぞ無理をせず何か  
あった場合は必ず病院へ足を  
運んでください。新しい環境  
や緊張から体調を崩す学生さ  
んもいらつしやると思います  
が、健康に気をつけて、本業  
にしっかり腰を据えて臨んで  
いただければ嬉しいのです。そ  
して、2019年の春には、  
「トリオ・オレアーデ」から、

新しいCDが発売されます。  
モーツァルトの弦楽三重奏  
「ディベルタイメント563」  
&「断章」が録音されていま  
す。ここ数年幾度も取り組ん  
できた素晴らしい作品です。  
楽器は3挺ともにストラディ  
バリウスを使用しており、言  
葉に表現できないくらい高貴  
で優雅で、心に染み渡る音色  
です。ご興味のある方はホー  
ムページからも視聴できます  
ので、覗いてみてくださいね。  
「トリオ・オレアーデ公式ホー  
ムページ [www.trio-oreadech](http://www.trio-oreadech)」  
それでは今年も皆さまに  
とって素晴らしい一年になり  
ますように！

1996年度助成

磯 絵里子

(ヴァイオリン)

昨年は楽壇デビュー20周年  
を記念してリリースしたアル  
バム「エスプレッシヴ」  
が好評を頂き、例年通り様々  
な演奏会に出演させて頂きま  
した。神奈川フィルとのモー  
ツァルトコンチェルトの共演  
や、鎌倉芸術館ゾリステン、  
宮崎国際音楽祭、アンサンブ  
ルΦ(ファイ)やデュオ・プ  
リマでの刺激的な音楽活動が  
できました。2019年も各  
地でソロ、トリオ、アンサン



ブルなど多岐にわたる演奏会を予定しています。地域創造アーティストとしてのアウトリーチ活動も各地であり、子供たちからの素直な音楽とのふれあいが活力を与えてくれるでしょう。パーソナリティをして8年目となりましたFMヨコハマのクラシック番組「磯絵里子'Sea Side Classic」でも、音楽のあれこれを発信できる機会を楽しんでいます。海外留学中の若い皆様、大事な時期の経験を、是非今後の長い楽壇生活に生かして頂きますようお願いしています。

私の演奏会や活動は下記HPまたはブログで新着スケジュールを公開しております！

http://www.34-net.com/  
eriko  
http://yaplog.jp/iso-diary/

**1997年度助成**

泉 良平  
(声楽)

近年は様々なキャラクターへの挑戦の年。昨年の日本オペラ協会『夕鶴』惣ど。悪人の振る舞いと終幕の後悔をどのように表現できるか苦悩の日々。引き続き『メリーウィドー』『こうもり』に主演。前半は藤原歌劇団ニューイ

ヤーオペラ『椿姫』ドゥフォーール、3月にはなかにし礼作、日本オペラ協会オペラ『静と義経』では弁慶を演じます。

山崎 貴子  
(ヴァイオリン)

早いもので、2004年に帰国して14年が経ちました。ヨーロッパでの勉強を懐かしく、そして貴い基盤と感じながら、演奏活動、後進の指導、そして家庭とのバランスに全力を注ぐ日々です。練習時間を捻出するのが至難の業：(歳と共にそこは欠かせない部分であるのに)、子供に「ママ、もう終わり？」と催促されながら「あと5分！」と目を三角にし、奮闘しています。今年にはカルテットで「Beethoven 弦楽四重奏曲全曲」に取り組み始めました。歳と共にますます勉強したいことが増える気がします。どうぞ、皆様、貴重な留学生生活を、存分に自分磨きに活かして下さい。

**1998年度助成**

島田 真千子  
(ヴァイオリン)

明けましておめでとうございます。昨年は、バッハのチェ

ンバロとヴァイオリンの為にソナタ6曲全曲リサイタルを行い、また一つ深い体験が出来ました。秋には北イタリアを訪れて偉大な建築や文化に触れ、更なる感動を覚えました。海外コンクール参加や留学時の若い頃に、ご支援を頂いたお陰でヨーロッパの様々な国の空気に触れられた事、感謝の気持ちでいっぱいです。その当時に得た感情や感覚、出合いや経験こそが、今になっても私を生かし、かけがえのない財産になっております。

今年も、ソロコンサートマスターを務めるセントラル愛知響、メンバーである水戸室内管弦楽団やヴェリタス弦楽四重奏団などの公演を通じて、全ての人や音楽との出会いを大切に行きたいと思っております。

**1999年度助成**

田邊 織恵  
(声楽)

2018年は2月に高槻でプッチーニの「ラ・ボエーム」ムゼッタ役、11月にザ・カレッジ・オペラハウスで、大阪音楽大学第54回オペラ公演、メノッティの「泥棒とオールドミス」のミスピン

カートン役をさせていただきました。また、京都教育大学音楽科、大阪音楽大学での勤務も6年目を迎え、音楽教育についても考える機会が増えています。音楽を学ぶことの意義、音楽の楽しさの原点を常に見つめながら、私自身も成長して行きたいと思っております。

**2000年度助成**

宮部 小牧  
(声楽)

大学での仕事と子育てに追われながらも充実した毎日です。一昨年末に恩師原田茂生先生が亡くなりました。留学に導いて下さった素晴らしい先生に心からの感謝と、教えを伝承してゆく意志を捧げます。最近には新作オペラの企画にも関わり、鳥井俊之作曲「雪女の恋」を創唱する予定です(2/25(月) 東京文化会館小ホール)。

諸田 広美  
(声楽)

昨年は例年以上に忙しく、私の地元・群馬と東京を、レッスンを演奏会で往復する日々でした。特に、秋冬は文化庁(藤原歌劇団)主催で、首都圏の小中学校10校を廻るオ

ペラ公演がありました。このオペラ公演は本当に素晴らしい、舞台セットや衣装も入り、学校の体育館を歌劇場に変えてしまう力がありました。今シーズンは、いよいよ藤原歌劇団公演デビューも控えていて、オペラ「ガラスの仮面」日本初演に出演します。藤原歌劇団に移籍して3年が経ちましたが、自分の力を活かさせてくれるカンパニーに在ることの重要さを、改めて実感しています。

上野 真理  
(ヴァイオリン)

昨年は、大学のシンポジウムにて現代曲の演奏、音楽学とコラボしたコンサート、無伴奏作品の演奏で、これまで経験してこなかった新しい機会を頂きました。今年も公共ホールの委嘱作品などで、新しい壁と向き合いますが、貴財団から留学させて頂いた頃の初心を思い出し、自分に来る事を誠実に、音楽の力を引き出せるよう努めていきたいと思っております。

神谷 未穂  
(ヴァイオリン)

仙台フィル&千葉響コンマス、デュオプリマ、宮城学院女子大特命教授として活動。



アンサンブル・マレッツラのCD第二弾でフォルテピアノの平井千絵さん、主人でもあるエマニュエル・ジラルールと共演したものが春にリリース。仙台国際音楽コンクールではピアノ部門のコンマスを担当予定。NHK TV「もりすたー」の月1レギュラー。東北にいらしたらご覧下さい。

シユレイファー(遠藤)弓子

(ハーブ・ダラス在)

皆様ご清祥のことと存じ上げます。日本での近年の自然災害やカリフォルニアでの大規模な山火事の発生、私のいるダラスでは11月なのに氷点下になったり、また中間選挙も終わりトランプ政権はどのような方向に向かうのか等々、不安要素が多くある現在ではあります。この様な時にこそ音楽の在り方をもう一度見つめ直し、音楽の力を信じて進んでいかななくては、そんなことを考える今日この頃です。目紛しい日々ですが、昨年もソロやオーケストラ、アンサンブルの演奏の機会に恵まれ、また、生徒たちの成長ぶりを嬉しく感じることも多い年となりました。

2001年度助成

大石 将紀

(サクソフォン)

留学という経験は自分の内面を深く掘り下げるといふことだったと思っています。10年目のその答えとして、今までに委嘱、また演奏を重ねてきた邦人作曲家の無伴奏作品を集めたアルバムを昨年アメリカのレーベル、オドラデック・レコードより発表しました。また今年からサクソフォン×邦楽器×現代音楽というプロジェクトを始めます。海外生活という人生の財産をこれからも大切にしたいと思えます。

2002年度助成

柳原 由香

(声楽・ベルリン在)

2018年は、ミュンヘン・カンマーシュピールで続いているベツリーニの「夢遊病の女」(ダヴィッド・マルトン演出)の公演を引き続き行い、1968年の学生運動をテーマにした同劇場での公演、そして現代オペラアンサンブルのNovodokの公演で、スイス作曲家のミヒャエル・ヴェアトミュラーの初演作品を歌いました。そして、5月

からはフランス・リヨンのオペラ座の新演出の「ドン・ジョヴァンニ」(マルトン演出、ステファノ・モンタナリ指揮)でツェルリーナを歌いました。この公演はライブ録音され、丘の上にある野外円形演劇場や、リヨン近辺、25以上の街で野外ライブ放送&スクリーン上映され、多くの方に見て頂きました。そのほかエストニア・タルトゥで指揮者ミハイル・ゲーツのもと、ベートーヴェン作曲のミサソレムニスでソリストを務め、その放送もラジオ生放送されました。ウェブ上でのラジオでも世界中のどこに居ても聞くことができ、公演後すぐに、オンラインで自分の歌を聴くことが出来ることは、新しい経験でした。10月には、ブリテン作曲の「Les Illuminations」を

で歌わせていただく予定です。

2003年度助成

市原 愛

(声楽)

昨年2月、3年前にオープンしたばかりのホール、フィンハーモニー・ド・パリ(パリ管弦楽団の新北拠地)にて、久石譲さん指揮のもと3公演に出演させて頂きます。海外研修を終えてからも、ヨーロッパやアジアでの演奏機会に恵まれましたが、フランスにはこれがデビューとなる予定で、とても楽しみです!

2004年度助成

富平 安希子

(声楽)

昨年はありがたいことにオペラ出演の機会を何度か頂き、素晴らしい共演者、スタッフに恵まれ非常に素晴らしい経験させて頂きました。お客様からも嬉しいお言葉を頂き今後の活動への励みとなりました。何よりも著名な演出家であるペーター・コンヴィチユニーさん、ギー・ヨーステンさんと一緒に活動することはオペラ歌手として活動する上での大きな財産になりました。

りました。お二人から非常に多くのことを学びましたし、毎回の稽古が刺激的でもとても楽しく、あらためてオペラの現場に関わることが心から好きだと実感しました。今年2月に東京二期会「金閣寺」で宮本亜門さんと一緒に歌っていただきます。その後もコンサートなど、歌う機会を頂いております。大歌手マリ

2005年度助成

臼木 あい

(声楽)

3月に新国立劇場で上演される、西村朗先生作曲の世界初演オペラ《紫苑物語》に千草役で出演させて頂く予定です。今まで経験した事がない程難しい譜面と日々格闘していますが、演技のみならず踊りなど、演出上求められる事も大変多く、今から身の引き締まる思いです。日頃は子育てと大学の仕事で手一杯ですが、このオペラの時だけは全

ての時間と体力をこちらに注ぐべく、家族の全面協力を得ようと思っております。

佐野 隆哉

(ピアノ)

昨年も様々な新しい出会いがあり、充実した音楽活動をさせて頂きました。8月にはNHK交響楽団との共演、10月にはサントリー大ホールの舞台にも立つことが出来、私にとって大きな経験となりました。また12月には新譜CD「ドビュッシー・12のエチュード」も発売となり、留学時代の経験が今でも支えとなっております。

横坂 源

(チェロ)

一年前、体の芯から冷える寒さと華やかな雰囲気混ざり合う中、ドイツのシユトウツトガルトにて室内楽グループ、Ludwig Chamber Playersのコンサート、録音をし、多くのお客様と共に素晴らしい一時を過ごすことができました。また秋には同メンバーと日本ツアーを開催し、みなとみらいホールやアクロス福岡等全8箇所演奏をさせて頂いた。学んだ実り多き日となりました。今年1月に指揮山下一

史氏日本センチュリー交響楽団とハイドンの一番、2月には指揮山田和樹氏日本フィルハーモニー交響楽団とサンサーンス第一番を、その後同オーケストラ、指揮藤岡幸夫氏と九州ツアーを一緒にさせて頂きます。明治安田クオリティオブライフ文化財団様を初め、多くの方々にて頂いたことに心から感謝をし、ベストを尽くして挑みたいと思います。

遠藤 真理

(チェロ)

昨年は7月に読響とライブ録音をした、ドヴォルザークのチェロ協奏曲のCDが発売になりました。ドヴォンコンを録音することは夢だったので、とても嬉しく充実した一年になりました。NHKFMで放送中のきらクラ！は7年目を迎え、収録でNHKへ行くことは日常となりつつありますが、各地でリスナーの方がコンサートにいらしてくださると、愛される番組になりつつある事を感じます。

2006年度助成

江水 妙子

(声楽)

私がモデナに留学していた頃、カバイヴァンスカ先生から声を作る為にヴェルディの作品ばかり課題に出され、当時の私にはとても難しく悔しい思いをしました。先日アイダを歌っている時に女史の教えが大変助けになりました。近くお会いする予定で今から震えています。留学時代得た物が今も私の中に確かに息づいています。

佐藤 卓史

(ピアノ)

シユーベルトの全ピアノ曲に取り組む「佐藤卓史シユーベルトツイクルス」を開始して5年が経ちました。知れば知るほど、シユーベルトの深く優しい世界に目眩がするような気分になります。次回第10回(4月5日・東京文化会館)は「舞曲II」、断片の再構成(世界初演)も含めて103曲の舞曲を一挙に演奏します。第11回(10月3日)はゲストを迎え「4手のためのポロネーズ」を取り上げます。  
www.takashisato.jp

鈴木 真貴子

(ピアノ)

昨年も音楽を通して様々な出会いや感動に恵まれた一年となりました。日本へ帰国して今年で10年となります。留学中は楽しいことばかりではなく、時には思い悩んだり壁にぶつかれることもありましたが、けれども、その時の頑張りと経験があったからこそ、今こうしてかけがえのない音楽の時間をいただけているのだと感じています。支えてくださる周りの皆様に感謝しながら、これからも真摯に音楽と向き合っていきたいと思えます。

2007年度助成

中村 恵理

(声楽・ミューンヘン在)

昨年から東京音楽大学で非常勤講師として勤務し、ドイツに拠点をおきながら日本での出演、帰国の際にレッスンを発行しております。海外での経験をより新鮮に学生に伝えられるよう努めると共に、新しい責任も感じていきます。2019年は新国立劇場他各地で「トゥーランドット」に出演、上海や台湾等アジア諸国での公演、その後は欧米でも出演を予定しております。

今後も、より良い音楽をお届けできるよう精進して参りたいと思います。

2008年度助成

クリステン・木実・ウィットマー

(声楽・オランダ在)

2019年6月2日に、東京オペラシティにてパッハコレギウムジャパンとの演奏会出演が決まりましたので、喜んでお知らせいたします。「主よ、人の望みの喜びよ」でお馴染みのカンタータ147番やマニフィカト等も含めた華やかな演目となっております。私の音楽家としての原点が詰まった故郷にて演奏できることは光栄であり感慨深くもあります。皆さん、是非いらしてくださいね!

塚越 慎子

(マリンバ)

昨年も全国各地にてコンサートを行いました。普段、コンサート会場になかなか足を運ばれない方にも楽しんでいただけるよう、今までになかったような新しいコンサート作りを心がけ、常にプログラムミングもトーク内容もこだわっています。「音楽が好きになった」「演奏もトークも楽しかった」等とお聞きする度、

音楽を通じて皆様と出会えたことに心から幸せを感じております。ソリストとしてオーケストラとの共演、現代音楽作品の初演、テレビ出演、アウトリーチ活動と、幅広く活動させていただいておりますが、今後さらさらその幅を広げられるよう、さまざまな挑戦を続けていきたいと思っております。

**2009年度助成**

盛田 麻央

(声楽)

留学を終えて早8年が経とうとしています。パリ国立高等音楽院での沢山の経験が、今の音楽生活の自信となり、日本でもフランス歌曲を歌う機会も増えてきたように思います。でも留学で一番自分が得たモノは「何とかなる! やってやる!」という強い心だと感じています。今年も一つ一つの舞台で負けない心を育てます!!

重島 清香

(声楽・ワイマール在)

早いもので、ドイツ・ワイマール歌劇場の専属歌手として務めて、丸6年が経ち、今シーズンは現代オペラの主役に挑戦いたします。作品はベストセラーになった、デイ

ブ・エガーズ作の「ザ・サークル」です。何よりも、ドイツ語の台詞に恐怖を感じていますが、力を抜き、5月の本番へ向け、着実に用意していくことが今の一番の課題です。

金子 平

(クラリネット)

読売日本交響楽団での演奏活動の傍ら、木曾音楽祭や、ピアノと木管五重奏から構成される東京六人組での演奏、ウエルズ弦楽四重奏団との共演など、定期的に演奏する機会をいただけるようになりました。今年も留学先だったドイツの先生が退官されることで、7年ぶりにリュウベックを訪ねたいと思っております。

**2010年度助成**

高橋 さやか

(声楽)

一昨年12月に五島財団の一年の研修を終え、この度、7年半のフランス留学を経て、7月に完全帰国致しました。6月にはボルドーで、地元のアークストラ・合唱・バリトンソリストと共にコンサートに出演し、ベルリオーズの「夏の夜」から4曲と、ドヴォルザークの「テ・デウム」の

ソプラノソロを歌い、フランスでの最後の公演、大変感慨深いものとなりました。

酒井 有彩

(ピアノ)

完全帰国して2年が経ちました。この度、ファースト・アルバムが発売になります。メインプログラムは、指揮飯森範親氏、日本センチュリー交響楽団とラヴェルのピアノ協奏曲ト長調、カップリングにソロ作品も録音させていただきました。発売を記念して、4/7王子ホール、4/12兵庫県立芸術文化センターにてリサイタルをさせていただき、CDと合わせて沢山のの方に聴いていただけましたら嬉しく思います。

**2011年度助成**

小林 大祐

(声楽)

一昨年二回目の挑戦となる日本音楽コンクール声楽部門において三位入賞という結果を得ることができました。順位以上に新しく出会った師の教えなどの成果が出たことがとても嬉しかったです。そして昨年は二期会本公演に初出演し主役二役のカヴァーキャストとしても経験を積ませて

いただきました。この経験を次の舞台にも活かしていきたいと思っております。

門間 信樹

(声楽・ニューヨーク在)

2012年にアメリカに渡り、日本に持ち帰るほどの経験を積んだか否かを自問し続け早や6年が過ぎました。今年もニューヨークの秋は短く「今年の秋は3時間だけだったね」と友人と笑い合っています。近々、ニューヨーク音楽界の殿堂カーネギーホール出演が決まりました。寒暖差の厳しい街で身体を壊さないように頑張ります。

永井 基慎

(ピアノ・フランス在)

早いものでパリ国立高等音楽院での学びも8年目に入りました。昨年度は幸運なことに学士課程の伴奏科を首席で卒業することができ、現在は気持ち新たに修士課程のピアノ伴奏科と歌曲伴奏科の2つの科で研鑽を積んでおります。歌曲伴奏法は、芸高2年生の時に静岡音楽館AOIの伴奏法講座にて野平一郎先生と河野克典先生のマスタークラスを受講させていただいた時以来いつかしっかりと勉強したいと感じていたため、今

回このように漸く深く学べる機会を得ることができ心から嬉しく思っております。また昨年はフルートやオーボエ、サクソフォンをはじめとする管楽器との共演が多い一年でした。今後もクラシック音楽の様々な形態の中で分野にとらわれずオールラウンドに活動ができるよう、精力的かつ着実に多くの技術や知識を身につけたいと思っております。

正戸 里佳

(ヴァイオリン・パリ在)

渡仏して10年。2016年にはパリのサル・カヴォーでチャイコフスキーの協奏曲を演奏。17年から日本での活動も本格始動し、18年にはキングレコードからデビューCDをリリースしました。思い入れのあるフランス曲集です。今はベートーヴェンのソナタ全曲シリーズを展開中です。本年も国内外のさまざまなコンサートで皆様に音楽を届けて参ります。



2012年度助成

増田 桃香 (ピアノ)

「過去から未来へ」  
長かった学生生活や、ロシアでの生活の思い出もほんの少しづつ遠くなってきたように感じます。しかし、音楽と向き合っている限り、新たな挑戦や葛藤といったものは止むことはありません。ありがたいことに、演奏の機会を頂いただけでなく、教育に関しても深く携わるようになり、より一層「音楽を勉強する意味」を考えさせられる日々です。

松本 紘佳 (ヴァイオリン)

私は2016年にウィーン市音楽芸術大学を最優秀の成績で卒業後、同大学大学院修士課程を経て、2018年より慶應義塾大学総合政策学部(湘南藤沢キャンパス)に在学し演奏活動を行っており、2018年に帰国後、ピアニストの梯剛之さんとのリサイタルを東京で行いました。2019年は2月に佐藤卓史さんとのリサイタル、続いて3月には鎌倉女子大学でのコンサートが予定されています。慶應では音楽神経科学を専門に研究をされている藤

井進也先生の研究会で、「将来的にクラシック音楽を社会的に薬として提供することを目指し、そのための科学的エビデンスを得るための研究」をしています。加えて、湘南藤沢キャンパスに隣接している湘南慶育病院や、信濃町の慶大医学部との共同研究プロジェクトでも研究を行っており、たくさんさんの素晴らしい方との出会いに心からの感謝をしながら、一つ一つの音を磨き続けてまいります。

上村 文乃 (チェロ・パーゼル在)

貴財団の皆様にご支援をいただきヨーロッパ留学がスタートし早5年が経ちました。現在はスイスのパーゼルに居ます。夏に無事ソリストコースを卒業する事ができ留学生生活を締め括る予定でしたが、思う事が有り昨年からクリストフ・コワン先生の下、古楽科にて勉強する事になりました。モダンチェロとバロックチェロの2台を使いこなす事は大変ですが、美しい光に導かれるように、心を音楽に捧げる事が出来るよう更に精進していきたいです。

2013年度助成

加藤 のぞみ (声楽・バレンシア在)

今、トリエステ歌劇場にて清教徒の公演中で、楽屋でカーテンコールを待ちながらこの記事を書いています。イタリアのパルマから始まった私のヨーロッパ生活も6年目となりました。現在はスペインのバレンシアを拠点に、イタリア、スペインの歌劇場を中心に音楽活動をしていきます。これから留学される皆さんにひとつアドバイスさせて頂くとしたら、まず、とにかく挑戦すること。コンクールやオーディションの時にまず私たちの脳裏に過ぎるのは「どうせ、ダメだろうな」「私なんて」「上手く歌えないかもしれない」緊張してうまく歌えなくても、失敗しても、悔しくても、その経験が自分を大きくしてくれます。そして音楽に常に真摯に向き合っていれば必ずどこかであなたを必要としている人に巡り会え、道は開けます。初めは分からないこと、不安なことだらけだと思いますが、人を頼って助けを借りて充実した留学生生活を過ごしてください。

佐藤 彦大 (ピアノ)

一昨年の完全帰国後、母校東京音楽大学で、昨年度から故郷の岩手大学でも教鞭を執っております。またオーケストラとの共演、リサイタル、伴奏、斬新な試みの「×2コンサート」、菅井知延子氏の作品のCD化、コンクール審査等、活動にも幅が広がって参りました。今後も一層社会に貢献できる様、感動を届けられる様頑張ります。

藤井 淳子 (チェロ・ベルリン在)

一昨年の11月、ベルリンから西に電車でおよそ一時間かけたところにある都市、ブラウンシュタットのアカデミー生にとりて入団し、早一年が経過しました。このオーケストラは過去に日本公演を行なったこともあるそうです。そしてアカデミーというのは、学生が研修の一環として、他の団員と同じようにプログラムをこなす他、アカデミー生同士で弦楽カルテットのレッスンやコンサートも行います。私は今まで学校やフェスティバルなどでしかオーケストラに参加したことしかな

かったのですが、本格的なプロのオーケストラに入ったことで学ぶことがとても沢山あり、曲もコンサートごとに違っていてとても面白いです。また、昨年9月からはスイス・バーゼル音楽院の修士課程にも入学し、念願だった石坂団十郎さんのクラスで勉強できることになりました。しかしベルリンから通っているのはいけず、オーケストラのリハーサル等が入ってしまうとどうしても自分の練習時間を確保するのが難しくなってしまうのですが、教授方やオーケストラ側両方と相談し、うまく両立できるように心がけています。そしてなんと11月18日には小さい頃からずっと夢だったNYのカーネギーホールでソロデビューを果たす事もでき、毎日とても充実したヨーロッパ生活を送っています。

2014年度助成

熊田アルベルト彩乃 (声楽・ウィーン在)

昨年は二期会の《魔弾の射手》でエンヒェンを歌わせていただいたことが何にも代え難い貴重で幸せな経験となりました。カリスマ的な演出家



と指揮者との素晴らしいプロダクションに関わることができ、これまでの経験への自信、そしてこれからも続いて行く挑戦への意気込みを新たにしました。また、指揮者のアレホさんが6か国語を巧みに操り、出演者の方々が得意とする言語でコミュニケーションを取っていらしたのを見て私も触発され、今は手始めにできるだけ英語を話す機会を増やしています。

宮里 直樹

(音楽・ウイーン在)

国内外で数々のコンサートに出させて頂く傍ら、更なる発展を求め挑戦も続けて来ました。その中の一つ、恥ずかしながらやりがちな失敗談。ヨーロッパとある大きな国際コンクールを受けた際に、自分の住む街の近くの小さな街で地区予選があり、受けるつもりで宿も電車の切符も用意して、前日にもう一度確認しておこうと思いインターネットを開くと「この街での予選はピアニストを連れてくること」と、海外は殆どがピアニストが用意されているが、小さい街にはたまにこういう事も。僕は仮病を使い、違う日、街に変えてもらえましたが、皆様はお気をつけあれ。

浜野 与志男

(ピアノ)

英国王立音楽大学大学院修了のちライブツィヒとモスクワ(音楽院)での勉強を経て帰国し、18年4月より東京藝術大学ならびに東京音楽大学に非常勤講師として着任いたしました。「知の結集点」たる大学は今後ますます開かれたい学びの場となり、本格的な人口減少時代を迎える社会においてこれまで以上に芸術創造の中心となる可能性をもっています。今後の変革期を前に、大学を演奏活動の傍らひとつの拠点としてもつことができると嬉しく思います。

浦山 瑠衣

(ピアノ・ボストン在)

昨年の夏は演奏を通じた新しい出会いを目的にアメリカ各地やフランスの音楽祭に参加し、積極的にアウトプットする努力をして参りました。今年にはアメリカの学校でのマスタークラスやアウトリーチ等のイベントが目白押しに、東京でのソロリサイタルや北海道でのデュオコンサートで故郷にも恩返しができる一年となりそうです。

中川 日出鷹

(ファゴット)

ルツェルン音楽祭に参加していました。ロンドン交響楽団とシュトゥックハウゼンの「Gruppen」をラトルの指揮で演奏しました。彼の解釈は今後シュトゥックハウゼンの作品を演奏する際のヒントにしたと思います。そのほか「NORI」をペーター・エトヴェシユの指揮で演奏しました。たくさんの方との出会いや新たな発見に満ちた一カ月でした。

2015年度助成

篠原 悠那

(ヴァイオリン・スイス在)

スイス・国際メヌーイーン音楽アカデミーでの留学も3年目となり、夏にはディプロマを取得する予定です。こちらでは行動範囲が広がりミラノやベルリンまでオペラ・コンサート鑑賞に行くなど、クラシック音楽の本場ヨーロッパで作曲家を身近に感じる生活を楽しんでいます。また今春から桐朋学園大学大学院修士課程に進学できることになりました。音楽家として生涯演奏していけるよう、自分の可能性を信じてこれからも勉強を続け 努力していきたい

と思っっています。

長尾 春花

(ヴァイオリン・ハンガリー在)

夏にはオペラのリハーサルと本番の隙間を縫って挑戦したカール・フレッシェ国際コンクールで思いがけず優勝を頂き、秋にはカーネギーホールでファビオ・ヴァツキのヴァイオリン協奏曲を演奏する機会に恵まれ、それらの傍ら博士論文作成に打ち込みました。多くの方々の支えが私の中で信じられない力となつて、奇跡のような日々を冒険しています。

麻生 雄基

(チューバ・ドイツ在)

ドイツにはプラクティクムと呼ばれる研修制度があり、一年間交響楽団や歌劇場などで団員として在籍し、リハーサルや本番などの実践経験を積むことができます。私が研修を行ったマンハイム国立歌劇場は一年間に行われる演目が非常に多い歌劇場として有名で、多くのオペラを学ぶ事ができました。今はドルトムント歌劇場でプラクティクムをしています。今後も目標に向かって一歩一歩邁進していきます！

2016年度助成

川口 成彦

(フォルテピアノ・アムステルダム在)

ショパン国際ピアノコンクールを主催するポーランドの国立ショパン研究所が昨今の古楽の隆興から古楽器でのショパンコンクールを昨年9月に開催しました。約1年半の準備が報われ、第2位に入賞することが出来ました。本当に嬉しいです。やつとスタートラインに立ったつもりでこれからますます頑張りたいと思います。

上野 明子

(ヴァイオリン・ケルン在)

ケルン生活もあつという間に3年目に突入しました。5月にはイタリアで開催された第25回アンドレア・ポスタッキーニ国際コンクールで第3位と特別賞を頂き、留学の成果が少し披露出来たような気がします。ヨーロッパ各地で演奏する機会も増え、その都度素敵な出会いに恵まれています。2月には修士修了リサイタルを控えているのでしっかりと準備をしていきたいです。

二瓶 真悠

昨年秋にベルリン芸大のマスターを卒業し、Deutsches Symphonie Orchester Berlinの契約団員として働き始めました。もうすぐヨーロッパツアーを予定しているのも楽しみです。今年には日本ツアーも予定しているのは是非聴きにいらしてください！今春は同大学のコンツェルトイグザメンに進学する予定です。この2年間、音楽に没頭し活動できたのも貴財団のご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。

八木 瑛子

(フルート・ザルツブルク在)  
ザルツブルクでの勉強も3年目となり、学んだ知識や習得した技術もありますが、未知なことや未熟な部分は果てしなく沢山あります。音楽を通して人との出会い、過ごした時間等、その感動の瞬間が色褪せぬよう、いつまでも初心を忘れず、家族や友人、先生方に支えられていることに感謝し、これからも研鑽に努めます。

2018年度助成

高橋 維

(声楽・ウィーン在)  
ウィーンで留学を始めてから、ヨーロッパの様々な土地でコンクールやオーディションに参加してきました。そこでお互いにリスペクトし合い、音楽を楽しむ演奏家たちとたくさん出会いました。初対面でも良い演奏だと思っただけから素直に声をかけ合い、音楽という共通点で語り合えることは、いつもとても素敵な体験です。

仁田原 祐

(ピアノ・ザルツブルク在)  
国際コンクールからの帰りの電車でのメッセージを書いていきます。今回良い結果を残すことはできませんでしたが、その舞台で得た経験や、新しい友人、久しぶりにコンクールで会う友人との出会い、そして何より聴いて下さったお客様からの温かい言葉に、ピアノを弾き色々なことに挑戦できる喜びと、より良い音楽を目指したいという向上心を強く感じています。留学の地ザルツブルクで更に研鑽を積んでいきます！

小林 吉成

(ヴァイオリン・ベルリン在)  
最初の一年はドイツでの生活に慣れる事に精一杯だった気がします。語学、食べ物、生活リズム、精神など、全てが違うものでした。それが最近ではそのドイツ語だからこそそのフレイズ感、その食べ物、リズム、精神だからこそドイツのクラシックの演奏はこう弾かれるのか等、理解できることが増え、またその逆(日本語)も然りだなと感じながら日々研鑽しています。

岡本 誠司

ベルリンでの留学生活もお陰様で2年目に入りました。演奏会やコンクールで、また日々の生活に於いても、自分とは大きく異なる価値観や感覚とこれまで以上に近く接することにより、自己を見つめ直す機会が増えました。演奏とは人の生き様そのもの。幅広く様々な経験を積みながら音楽とひたすら真摯に向き合い続け、究めていこうと改めて気を引き締めております。

山根 一仁

(ヴァイオリン・ミュンヘン在)  
僕が今住んでいるドイツのミュンヘンは自然に恵まれた素敵な土地です。ミュンヘンフィル・バイエルン放送響をはじめとした世界でも有数のオーケストラがいくつもあり、恵まれた環境の中、勉強でき幸せです。食は日本が最高ですが、ミュンヘンのビールや白ソーセージは別格です。多くの作曲家を生んだ国ドイツで、これからもたくさんさんのことを体験したいと思います。





